

環境活動レポート



第7版作成 2024年07月10日

対象期間 2023年7月～2024年6月

 吉祥建設株式会社

《 目 次 》

1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 対象範囲	2
6) 事業規模	2
7) 推進組織図	2
2. 環境方針	3
3. 環境目標	4
4. 環境目標の実績	4
5. 環境活動計画と取組結果、及びその評価	5
6. 次年度の環境目標と活動計画	6
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反訴訟の有無	7
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	7

1. 事業概要

1) 事業所名及び代表者名

吉祥建設株式会社

代表取締役 川口 誠

2) 所在地

本社 〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂8284番地

資材置場 〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂8284番地

3) 環境管理責任者

EA-21責任者 : 日高 正弘

4) 連絡先

連絡担当者 : 日高 正弘

TEL : 0985-74-3373

FAX : 0985-74-3308

E-mail: hidaka_masahiro2@paving-g.jp

5) 対象範囲・・・全組織・全活動

・対象組織・・・全社・・(関連事業所なし)

・対象活動・・・建設業

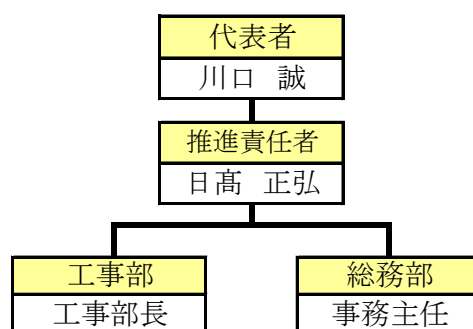
(土木一式工事、舗装工事、とび・土工工事)

・対象期間・・・2023年7月～2024年6月

6) 事業規模

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
工事件数	217	190	212	196
従業員数	20	19	17	19
事務所床面積(m ²)	132	132	132	132
敷地総面積(m ²)	640	640	640	640

7) 推進組織図



企業理念

私たちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

環境基本方針

環境保護活動の継続的改善に努め、生物多様性を考慮し、「環境保護と経済活動の両立」する持続可能な社会の実現に貢献する。

1. 環境法令、その他要求事項を遵守して、適正な事業活動を推進する。
2. 環境と資源を大切にし、生物多様性を考慮し、「地球温暖化対策」及び、「循環型社会の構築」を基盤とした環境保護活動を推進する。
3. 事業活動を通じて以下の環境負荷の低減を推進する。
 - ①. 電力・化石燃料などの節減による、二酸化炭素排出量の削減
 - ②. 事業所や建設現場で発生する廃棄物の削減とリサイクル推進
 - ③. 節水活動などによる水資源使用量の節減
4. 環境に配慮した物品の優先購入に努める。
5. 環境に配慮した施工・工法を推進し、現場周辺の自然環境保全に努める。

以上は全従業員へ周知し、環境活動レポートで積極的に公表する。

改訂 2022年7月1日
吉祥建設株式会社
代表取締役 川口 誠

3. 環境目標

取組み項目	実施区	3ヶ年中期目標			
		基準値 (2017年度実績)	2021年度 (2021年7月～ 2022年6月)	2022年度 (2022年7月～ 2023年6月)	2023年度 (2023年7月～ 2024年6月)
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	全社	184,676	174,352	172,536	171,628
①電気使用量の削減 (kWh) ②ガソリン使用量の削減 (L) ③軽油消費量の削減 (L) ④LPG消費量の削減 (kg)	事務所	20,012	19,212	19,011	18,911
	現場	21,715	20,846	20,629	20,521
	現場	43,368	41,633	41,200	40,983
	現場	3,361	3,227	3,193	3,176
	現場	—	再資源化率95%以上		
2 の 削 減 物	事務所	32	30	29	28
	現場	—	再資源化率95%以上		
3. 水資源使用量の削減 (m ³)	全社	515.0	494.4	489.3	486.7
4. 自らが施行する製品・サービス	現場	環境活動計画の遵守を目標とする			

* 基準値は2017年7月～2018年6月の実績としました。
* 一般廃棄物は最終処分量の削減を目標とします。
* 建設副産物の再資源化率＝(再利用＋再生利用＋熱回収)÷総排出量×100
* 自らが施工する製品・サービスの目標は、当該環境活動計画を遵守する事を目標としています。

* 2019年度からグリーン商品購入の促進は、目標管理から除外しました。
* 2019年度から各エネルギーのCO2排出係数は、ガイドライン2017年版に対応する為、以下のように見直しました

	2018年度迄	2019年度から	九州電力調整後排出係数
購入電力	0.518	0.463	
ガソリン	2.322	2.32	
軽油	2.624	2.58	
LPG	3.002	3.00	

4. 環境目標の実績

2023年度(2023年7月～2024年6月)までの目標及び実績は以下の通りです。

取組み項目	実施区	目標値	実績	達成率	評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	全社	171,628	151,330	113.4%	○
①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	18,911	22,856	82.7%	×
②ガソリン使用量の削減 (L)	現場	20,521	16,270	126.1%	○
③軽油使用量の削減 (L)	現場	40,983	36,157	113.3%	○
④LPG使用量の削減 (kg)	現場	3,176	3,239	98.1%	×
2 の 削 減 物	事務所	28	28	100.0%	○
	現場	95%以上	99.2% (625.58t/620.74t)	103.9%	○
3. 水資源使用量の削減 (m ³)	全社	486.7	466.6	104.3%	○
4. 自らが施行する製品・サービス	現場	環境活動計画を遵守しています。			○

* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、環境省公表の九州電力調整後排出係数0.463です。
* 現場の灯油や事務所の都市ガスを含む全社の二酸化炭素排出量は、151,946.4 kg-CO2です

5. 環境活動計画と取組み結果、及びその評価

取組項目	活動内容	取組み状況	評価
・電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	昼休み時、部分的に電気消灯、未使用時のPCのディスプレイの電源OFFを実行した。	○
	②空調温度管理 (夏28℃程度・冬22℃程度)	コロナの蔓延防止も考慮して窓を開け外気を入れて室温の調整を頻繁に行った。	△
	③LED照明や省電力照明機器、省電力型機器への転換推進	H30年度に事務所内照明をLED照明に入換えた。	○
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップなど)	空ぶかしや暖気運転をしない様、周知徹底した。	○
	②現場への相乗り推進	現場での駐車場確保の問題も有り、極力相乗りを行い、社用車の稼働を減らした。	○
	③不要なものを積んだままにしての走行はしない	不要物を積んだままの車両が一部見受けられた、改善を求めた。	○
	④ハイブリッドカーや軽自動車等の低燃費車への買換え推進	営業車をEHV車増台して、計5台とした。	○
・軽油使用量の削減	①重機等はできるだけフルパワー操作をしない(アクセル7割運動等)	毎朝のミーティング時に指示している。	○
	②重機の定期点検整備の実施	重機のスケジュール点検を徹底し、不具合があった場合は早急に改善・修理を行った。	○
	③作業規模に応じた建設機械等の種類や規格を用いてエネルギーの消費を抑える	施工規模や現場条件を協議して、適切な性能の重機を選定した。	○
・LPG使用量の削減	①アスファルトフィニッシャーのアイロン温度の適温化推進	アイロンの温度は小まめに確認し、適正温度に努めている。	○
・一般廃棄物の削減	①廃棄物を分別して最終処分量の削減を目指す	紙、プラ、ペットボトル、缶等分別したゴミ箱を事務所内設置した。	△
	②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピー、集約コピー努める	社内書類に関しては、使用済の裏面コピーの推進を行った。	○
	③コピートナーカートリッジや梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう	納入の際、引取りを実施した。	○
・建設副産物の再資源化率の向上	①資材発注時は仕様書を再チェックして在庫確認を行い残材の発生を抑制	資材は在庫のものから使用し、残材を制御している。	△
	②建設残余材が発生したら持ち帰り、分別保管(再利用の推進)	抜打ちで確認するが、分別が不十分な場合がある。	△
	③廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼する	廃棄物は指定リサイクル業者へ依頼している。	○
・水資源使用量の削減	①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付	トイレ及び屋外の水道に「節水」を促す、掲示物を設置した。	○
	②水道配管からの漏水を定期的に点検	目視に点検実施。	○
	③車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめる	ほぼ、洗車をしてる場面はみえていない。	○
・自らが施行する製品サービス (環境配慮型施工の推進)	①環境配慮型の建設機械を使用する(排対型、低騒音・低振動型、エコ操作型)	排気ガス対策型や低振動の重機の使用を推進した。	○
	②発注者に対して環境配慮型施工、工法、資材等の提案を行う	発注者に対して、現場に合ったリサイクル工法を提案している。	○
	③自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する	使用重機は騒音制御型を使用し、粉塵対策を講じて施工している。	○

6.次年度の環境目標と環境活動計画

取組項目	次年度(2024年度)の取組内容
二酸化炭素排出量 171,446(kg-Co2)	省エネ・省資源活動の推進
・電気使用量の削減 18, 891kWh	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底 ②空調温度管理（夏28℃程度・冬22℃程度） ③LED照明や省電力照明機器、省電力型機器への転換推進
・ガソリン使用量の削減 20, 499 L	①エコドライブの徹底（アイドリングストップなど） ②現場への相乗り推進 ③不要なものを積んだままにしての走行はしない ④ハイブリッドカーや軽自動車等の低燃費車への買換え推進
・軽油使用量の削減 40, 939 L	①重機等はできるだけフルパワー操作をしない(アクセル7割運動等) ②重機の定期点検整備の実施 ③作業規模に応じた建設機械等の種類や規格を用いてエネルギーの消費を抑える
・LPG使用量の削減 3,173 kg	①アスファルトフィニッシャーのアイロン温度の適温化推進
・一般廃棄物の削減 28袋	①廃棄物を分別して最終処分量の削減を目指す ②コピーは裏紙使用や両面コピー、縮小コピー、集約コピー努める ③コピー用カートリッジや梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう
・建設副産物の 再資源化率の向上 95%以上	①資材発注時は仕様書を再チェックして在庫確認を行い残材の発生を抑制 ②建設残余材が発生したら持ち帰り、分別保管(再利用の推進) ③廃棄物の処理はできるだけサイクル業者へ依頼する
・水資源使用量の削減 486.2m ³	①蛇口付近に「節水」を意識させるシール等を貼付る ②水道配管からの漏水を定期的に点検 ③車両や建設機械の洗車は必要最小限にとどめる
・自らが施行する製品 サービス（環境配慮型 施工の推進）	①環境配慮型の建設機械を使用する(排対型、低騒音・低振動型、エコ操作型) ②発注者に対して環境配慮型施工、工法、資材等の提案を行う ③自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する

・環境活動計画を見直した結果、今期も上記の活動計画を徹底して実施する事にしました。
ただし、社会情勢や事業内容等の変化があった場合は、適宜見直して取組みます。

7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反訴訟の有無

当社の事業に係る環境関連法規は、担当者が定期的に日建連のURLで確認しています。

尚、関連法規制の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの指摘、及び地域住民からのクレームや訴訟もありませんでした。

現場での遵守状況は、安全パトロール中や安全会議時などで確認しています

当社の事業に関する主な環境関連法規と遵守状況は以下の通りです。

法規名	該当する要求事項	評価
廃棄物処理法	委託契約の締結	順守
	マニフェストの交付、保管義務	順守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	順守
	多量排出事業者 計画書、実施書	順守
	保管場所の掲示	順守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	順守
	必要事項を都道府県知事に届け出	順守
	分別解体、再資源化促進、再資源使用	順守
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	順守

8.代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21環境活動を始めて6年目を終えて、環境負荷は当初予想した通り工事件数や内容に大きく左右されて活動の結果が数値に現れない事もありますが、この環境活動が僅かでも地球環境負荷の削減に貢献しているとの思いを持って、全社員一丸となって活動を継続する所存です。